

ハマナ サービスニュース

関係各位 殿

株式会社 浜名ワークス

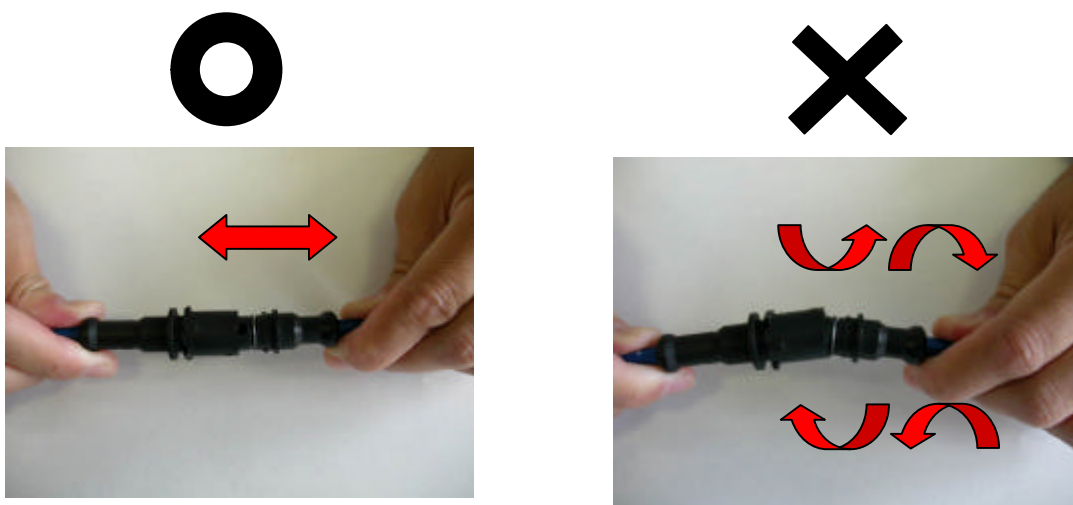
A B S センサーケーブル脱着時不具合防止

A B S は安定した制動をサポートする重要な装置です。トレーラ A B S に異常が発生すると、運転席のトレーラ A B S 警告灯が点灯します。

A B S / E C U の自己診断機能から、「A B S 車輪速センサー系統」の異常と診断された場合、従来は「車輪速センサー」及び「車輪速センサー延長ケーブル」の交換にて対応してまいりましたが、不具合の多くは「車輪速センサー」と「車輪速センサー延長ケーブル」の連結コネクタ端子部接触不良が原因と解ってまいりました。つきましては、連結コネクタの『正しい脱着方法』及び『コネクタ端子修正方法』をご案内しますので、不具合発生への減少にご協力頂きますようお願い申し上げます。

【 1 】 車輪速センサーと延長ケーブル接続コネクタの正しい脱着方法。

接続コネクタの脱着は、コネクタ軸方向に真直ぐ行なって下さい。



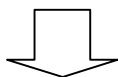
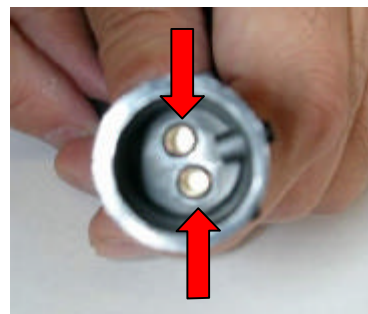
接続コネクタは真直ぐ抜き差ししないと、コネクタ内部の端子部が変形し、接続後の導通不良によりトレーラ A B S 警告灯が点灯し、トレーラ側 A B S / E C U の自己診断ダイアグ表示ランプがセンサー故障点滅表示を開始する原因となります。

(注) A B S / E C U には、『パリオ C 2』と『V C S』タイプがあり故障コードの読み取り方が異なります。車両搭載の「取扱い説明書」に故障コード表が添付してありますので参照下さい。

尚、E B S 仕様車は自己診断機能が付いていますが、専用ソフトをインストールしたパソコンを接続しないと不具合部位の確認が取れません。弊社までご連絡下さい。

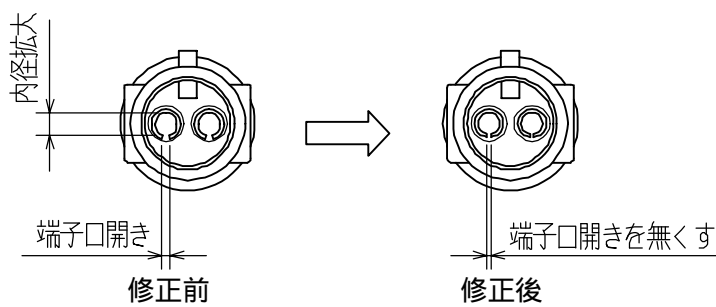
【2】「車輪速センサー」及び「車輪速センサー延長ケーブル」単品の導通 / 抵抗値に異常が無くて、センサー故障点滅表示する場合の対処。

接続コネクタ・メス側内部ハーネス端子（メス）の口が脱着時の偏力により変形して、オス側端子挿入後導通不良を引き起こしている場合があります。（右写真参照）



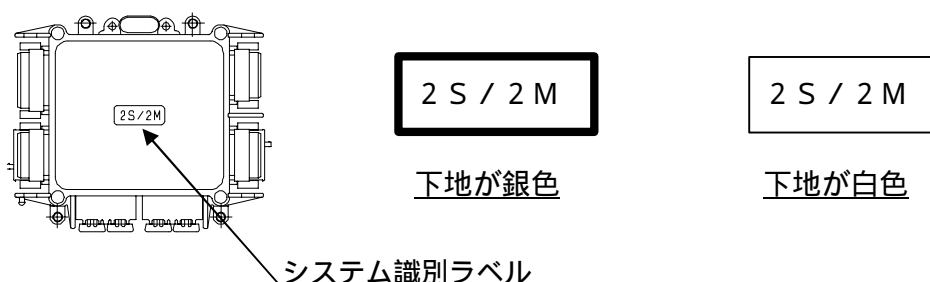
マイナスドライバ等で、ハーネス端子の開いた口を修正し正しく接続して下さい。

（先のとがった工具を使用すると、局部的に変形する場合がありますのでご注意ください。）



（備考）

下図のようなVCS型ABS/ECUにおきまして、本体中央部のシステム識別用ラベルの下地が銀色の物と白色の物があります。



下地が白色の物は、トラクタエンジンキーを「ON」にすると、一度トレーラABS警告灯が点灯し、その後車速に関係無く異常が無ければ、約3秒後に消灯します。（下地が銀色の物は、車速が約7km/hを超えないと警告灯は消灯しません。）但し、故障が無くて次の場合は停車中警告灯は消灯せず、車速が約7km/hを超えないと消灯しません。故障と間違えないよう注意して下さい。

完全な新品又はシステム変更直後。

車輪速センサーに係わる故障の修理直後。

エンジンキー「ON」から約30分以上全く走行しないでエンジンキーを「OFF」にして再度「ON」にした場合。

エンジンキーを「ON」にしてから、約60分以上全く走行しなかった場合。

いずれの場合も、車速が約7km/hを超え一度ABS警告灯が消灯すると、次回エンジンキーを「ON」にしてから約3秒後に警告灯は消灯します。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いします。

(株)浜名ワークス 技術部 053-583-2222